



アーチ C・クラフが目指したことは

第2地域 ロータリー財団地域コーディネーター補佐 大谷 新一郎（相模原南 RC）

会員皆様のロータリー財団に対するご理解ご協力に厚く感謝申し上げます。

私も第2地域の財団委員会は FF9と呼ばれる9地区の財団委員長さんと伊藤 RRF (ロータリー財団地域コーディネーター)・3名の ARRFC(ロータリー財団地域コーディネーター補佐)で情報交換及び財団寄付の促進を目的とするチームを作っております。3代前の舟木 RRF の名を付けさせていただきました。また昨年元日に発生した能登半島地震の2610地区は第2地域内にあります。復興に対し会員皆様の支援等に感謝するとともに、2610地区の会員皆様の大変困難な環境の中でのゆるぎない奉仕活動に敬意を表する次第です。



さて、今回はアーチ C・クラフがロータリー財団の設立で目指したことを考えてみたいと思います。

1917年に財団の前身となる基金が提案された年は第1次世界大戦の真っただ中で、またスペイン風邪という過去に類を見ない感染症(世界で5000万人が死亡)が蔓延している混沌とした世界でありました。そんな中ロータリー財団をぜひでも設立した理由は何だったのでしょうか。その目的は2点ほど考えることができます。

- 1) ロータリーが社会奉仕を今まで通り実行していくには世界でよいことをするための基金を作るのが極めて適切と考えた。
- 2) ロータリーの奉仕の実行と精神を未来永劫に続けていくにはロータリー財団が不可欠と考えた。

その意味をたとえ話で以下のように語っています。

「ロータリー財団はレンガ石の記念碑を建てるものではない。たとえ大理石に刻んだとしてもやがてはくずれてしまうだろう。真鍮を使ったとしてもいつかは汚れてしまうだろう。だが心の中に碑銘を刻むなら、そしてロータリー精神と神をおそれ同胞を愛する気持ちを吹き込むならば、我々が刻んだものは永遠に輝き続け、文明の続く限りロータリーを不滅なものにするだろう。」

アーチ C・クラフの精神を胸に刻み、
争いのない平和な世界の実現に世界でよいことを推進しましょう。

